

朝来市総合計画審議会 第6回 会議録

- 開催日時 令和3年6月28日（月）10時00分～11時30分
- 開催場所 朝来市役所本庁舎 4階 会議室
- 出席者の氏名

	出席者	欠席者
委員	岡 和彦	宮谷 泰史
	草郷 孝好	
	桐山 徹郎	
	篠原 諒太	
	下口 光子	
	関 綾乃	
	津 志歩	
	中尾 敦子	
	西垣 佳生	
	濱 智絵	
	松本 正寛	
	吉井 忠大	
事務局 (市長公室総合政策課)	政策担当部長 大林 崇人	
	総合政策課長 和田 幸司	
	課長補佐 馬袋 真紀	
	主 査 高本 恵三	

- 傍聴者 なし
- 会議
 - 1 開会

第6回朝来市総合計画審議会を開催する。
 - 2 あいさつ

会長

今日で総合計画審議会の最終回を迎えた。私自身が朝来市民ではないこと

もあり、委員の皆さんと対話をしながら朝来市はどういうまちなのかを理解することを自分の“ものさし”としていた。第1回審議会以降、委員の皆さんがこの朝来市をどのようにしたいのかという想いを本音でしっかり発言していただいたことで、仮に明日から私が朝来市民になったとしても、朝来市のことをしっかり理解し満足のいく暮らしができると感じ、さらに、どういうまちにしていきたいかという市民の一人としての想いを持つこともできるほどになっている。また、皆さんの意見は、回を重ねるごとに、総合計画の中に融合していると感じている。

今日はこれから先を見据えた話をできる場になればと思っている。

部長

昨年度は基本構想についての審議、本年度は基本計画 35 施策についての審議いただいた。委員の皆様には、仕事や家庭等御多用の中、熱心に議論をいただいたこと、感謝する。この審議会は、本日、市長へ答申書の提出をもって終了となる。本日は、ふりかえりをした後、委員の皆様から一言ずつコメントを言っていただく予定にしている。最後に想いをしっかりと伝えていただきたい。皆様の御意見が、市長をはじめ事務局職員のやる気や反省からの気づきになると思うので、よろしくをお願いしたい。

第3次総合計画については、今後、皆様の意見をしっかりと踏まえ、最終の取りまとめを行い、9月議会への上程・議決をいただき、完成させたいと思っている。

3 第5回総合計画審議会のふりかえり（共有）

事務局 <資料2、資料3>

基本構想たたき台（第5回審議会以降の修正点）等について説明。

- ・将来像の説明文に市長の公約から文言を追加する。
- ・政策指標の朝来市民の幸福度に影響を与える要素「市民一人一人姿」の一つの指標を修正する。
- ・基本計画の審議内容については、資料3のとおり。

4 ふりかえり対話

（1）グループ対話の進め方について（説明）

事務局

グループ対話の方法について説明。

（2）グループ対話

グループごとに、総合計画の中で思い入れがあることや、総合計画の実現のために自分ができること等について、ふりかえり対話をする。

5 答申書の提出

会長から市長へ答申書を提出する。

その後、全委員から一言ずつ発言する。

委員

審議会の委員に選出いただき、感謝する。とても良い経験になった。この審議会をとおして改めて朝来市のことを好きだと感じた。私は夫婦ともに朝来市出身ではない中で朝来市に暮らしているが、本当に良いまちに住んでいると感じている。ありがたい朝来市に向かって、自分でできることも、仕事を通じてできることもたくさんあると気づいた。今後、微力ながらも頑張っていきたい。

委員

審議会をとおして、多様な委員の皆様の意見を聞くことができたことや、朝来市で取り組まれていることを知ることもでき、とても良い機会となった。朝来市は暮らすのがとても楽しいまちだと感じているが、これからもそういうまちであり続けて欲しい。また、そういうまちであり続けられるよう、自分自身も取組をしていきたい。

市職員の皆さんにお願いしたいことは、既存の概念にとらわれないで欲しい。そのために、私たち市民もともに進んでいきたい。

委員

朝来市商工会青年部長として審議会に参加した。市民一人一人が幸せを実感するまちの中で、事業者も幸せが実感できるようにしたい。市内の事業者数は減少しており、後継者がいない事業所もある。行政と一緒に進めていきたい。

また、素晴らしい総合計画となったので、実行に向けて朝来市商工会としてもしっかりと広報していきたいと考えている。

委員

朝来市最上位計画である総合計画づくりに携わることができ、とても貴重な経験となった。審議会では、友人や地域の方の声も伝えることができた。

これからの朝来市は、朝来市だけで生まれ育った人だけでなく、移住や結婚等により様々な人が増えていくことが想定される中で、朝来市が朝来市であり続けるために、審議会の委員の皆さんの意見を自分事として受け止めながらこれからの生活に活かしていきたい。

第3次総合計画は、市役所が中心になりながら推進していくことになるが、市民がそれぞれの立場で参画していくことが大切であり、自分も参画していきたい。

委員

総合計画審議会に参加し、改めて、朝来市は、市民一人一人の幸せや自己

肯定感を大切にしているまちだと感じた。一方で、教育現場では、疑問を感じるがあった。枠にはまらない子どもの自己肯定感を下げてしまわないように、一人一人の素晴らしさを認め、一人一人を大切にする教育であってほしい。私も市民の一人として、自己肯定感を育んでいける活動をしていきたい。

結婚を機に朝来市に住み、4～5年前まで朝来市のことが嫌いだったが、今は、朝来市に来て本当に良かったと思っている。

副会長

会長の対話しやすい雰囲気づくりに加え、事務局の用意周到な場の設定や準備があり、委員は今までの体験、夢、希望等の様々な想いを存分に語ることができた。第1回審議会から多くの想いを伝えたが、これからは行政に求めるだけでなく、主体性を持った市民としてまちづくりに参画し、市民としての役割を果たしていく必要があると感じた。

市長におかれては、答申内容を十分に踏まえていただき、新しい時代に向かって総合計画を策定していただきたい。

委員

今まで多くの審議会に参加させていただいた。審議会では、たたき台に対して良い悪い等の意見を言うのかと想像していたが、この審議会は対話で進められ、すごい審議会だと感じた。対話の中でこの計画の素案が作られてきたが、対話に参加した私たち委員は責任があると実感している。この総合計画が議決されて推進される時、この計画にどのような想いが込められてきたかということ、市民の皆さんに伝える義務があると感じている。

答申書の「将来像の実現に向けて」の中に「人と人とのつながりを大切にしながら進めていく」とあるが、新型コロナウイルス感染症などもあり、特に、場づくりや支え合いが大切になってきている。この計画の実現に向けて、私自身も微力ながら取り組んでいきたい。

委員

「明るい心は、財産よりも貴重」と思っている。明るい心さえあれば困難も乗り越えられるということを感じている。審議の中で、指標のハードルを上げる等、市職員の皆さんには大変なこともあったと思うが、明るい心で働いて欲しい。それが、市民にも伝わると思う。

委員

今まで、自分が何かにチャレンジするときに、単発のことは成功しやすいが、定期的・長期的に続けることはうまくいかないことがあった。それは、自分が自立をしていなかったのだと思う。強い地域というのは、自立している人が多い地域だと思っており、まずは、自分が自立し、お裾分けを地域に

できるように、地道に歩むことが大切だと思っている。一方で、子どもたちには大きな夢を持ってもらいたいと思っている。自分ができることをしっかりとやっていきたい。

委員

審議会に参加し、市役所の業務は多岐にわたることが分かったが、市役所任せにするのではなく、市民一人一人が自分事として自分たちのまちを自分たちで良くしていくのだという意識が持てるようにしていきたい。そのためには、様々な事業で多くの市民が参画できるような仕組みがあれば良いと思う。

自分自身は、家庭や地域といった小さな単位から、一人一人を尊重し、一人一人に役割があり幸福感を感じられるようなコミュニティを育てていきたい。

委員

審議会では委員の皆さんの多様な意見を聞き、成長することができた。今回、審議会に参加し、特に地域のつながりの大切さを感じることができた。

自分が「こんなことをしたら良いのにな」と思って発言したことが、審議の中で総合計画となって書面になると思うと責任を実感している。この計画が実行できるよう、地域の中でしっかりと伝えていきたい。

会長

審議会委員の皆さんの活発な議論のおかげで答申書の提出まですることができた。私は、コロナ禍でオンラインでの参加が多くなったが、事務局の支えがあって、皆さんと同じ会議室にいるかのように皆さんとコミュニケーションをとり、一緒に議論に参加できたことに、御礼を申し上げたい。

この議論の中でつくられた総合計画の将来像は「人と人がつながり 幸せが循環するまち」、副題の「対話で拓く朝来市の未来」は、本当に素晴らしいと思う。目指すべきまちの姿を皆がイメージしやすい。

今後、総合計画の策定・推進をとおして、このようなまちをつくっていくことを朝来市が宣言することで、市民の皆さんはそこに向かって歩いていくことになる。朝来市は、あさご未来会議をはじめ多くの市民の皆さんが対話に参加し、さらに審議会でも委員の皆さんがアイデア等を出し合い、それらの過程があってできた将来像だからこそ、それを実現できると思う。

この審議会では、素晴らしい対話が繰り広げられた。今後、委員の皆さん一人一人がモデルとなって、それぞれの地域で対話を繰り広げていただきたい。そうすることで、幸せが循環していく朝来スタイルが確立できるのではないかと思う。

朝来市の「幸せ」の素晴らしいところは、“Happiness”ではなく“Well-Being”だということ。朝来市と市民の双方の「良い状態」をつくる

ことを目指すことは、かけがえのないことであり、大切にしてほしい。

市長

審議会の委員の皆様には、昨年から6回にわたり審議いただき、素晴らしい総合計画をつくり上げていただき、感謝申し上げます。

私は、市長就任時に職員に、次のことを申し上げた。一つ目は、コロナ禍で市民との距離が遠ざかっている中で、職員は現場に行き、市民の皆さんと対話をしながら市政運営に取り組んでほしいこと。二つ目は、前例踏襲せず果敢に挑戦すること。三つ目は、市民の皆さんに「伝える」のではなく「伝わる」ようにすること。

このような中で、皆さんに提言をいただいた将来像の「人と人がつながり幸せが循環するまち ～対話で拓く朝来市の未来～」と、私の公約で掲げた「全ての住民の皆さんが幸せを実感するまち」は同義語でと考えている。市民一人一人にとって、将来像がありたいまちの姿であり、誇りを持ってともに歩んでいけるまちになるようにしていきたい。

この総合計画は、パブリックコメントの実施を経て、9月議会に上程し、令和4年度から取組がスタートする。将来像の実現に向けてしっかりと取り組んでいきたい。委員の皆様には引き続き御支援をお願いしたい。

6 今後の予定

第3次総合計画策定までの今後の流れを連絡。

7 閉会

副会長

12月16日から本日で6回目となる審議会は、非常にタイトなスケジュールに加え、毎回長時間の会議だったが、そんな時間を感じさせない楽しい雰囲気での会議だった。また、存分に意見を発言いただいた会議だった。

大変お疲れさまでした。